

令和7年度 佐々町総合教育会議（第1回）会議録

開催日時：令和8年2月25日（水）13時30分～14時25分

開催場所：佐々町役場3階委員会室

出席者：濱野町長、富野教育長、教育委員（中村委員、荒木委員、金子委員、金澤委員）
井手教育次長、林枝補佐、鮎川係長、落合総務課長、内山補佐

傍聴者：無し

【次第】

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協議事項
 - (1) 各委員からの質問について
 - (2) その他
- 5 閉会

【会議録】

1 開会

落合総務課長

時間前ではございますが、本日の会議につきましては、町のホームページにて傍聴の案内をいたしておりましたが、傍聴の希望はございませんでした。

傍聴の申請は、佐々町総合教育会議傍聴要領第3条の規定に基づきまして、開催時刻の15分前までに手続きを行うようになっており、既に締め切らせていただきましたので、ご報告をさせていただきます。

落合総務課長

定刻となりましたので、ただいまから佐々町総合教育会議を開催いたします。

2 町長あいさつ

落合総務課長

開催にあたりまして、佐々町長があいさつをいたします。

濱野町長

皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ、佐々町総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様におかれましては、日頃から佐々町の教育行政にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、この総合教育会議は、教育大綱の策定に関する協議のほか、「教育のための諸条

件の整備」、「地域の実情に応じた教育・文化振興を図るための施策」、「児童、生徒に被害が生ずる場合の緊急措置」についての協議、調整を行うことを目的としております。

本日は、教育委員の皆さまからご質問をいただき、町の諸課題について協議をさせていただきたいと思っております。

私は今回初めて出席をさせていただきます。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

皆様のご協力をいただきまして、実りある会議となりますようお願いを申し上げます。簡単ではございますが、開催にあたりましてのご挨拶といたします。よろしくお願いをいたします。

3 教育長あいさつ

落合総務課長

続きまして、富野教育長がご挨拶申し上げます。

富野教育長

改めまして皆さんこんにちは。本日は佐々町総合教育会議を開いていただき教育に関する施策の情報交換をしていただくことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

町長におかれましては、お忙しい中に会議を開催していただいたことに対しましてお礼を申し上げますとともに、本日は実りある情報交換が出来ればなというふうに思っております。

将来の予測が本当に難しい時代をこれから生きていく子ども達のために、どのような政策が必要なのかということについては、教育だけでは計り知れない大きな課題でございます。

多様な課題、多様な政策を求められる中で、町長部局と教育委員会が共に手を取り合って、町の未来を見据え、子供から大人までの総合的な教育政策について、様々な考えを合わせていければと考えております。

本日は忌憚のないご意見をこちらの方も申し上げますので、町長の方からも教育に対する思いを伝えたいと思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。

4 協議事項

落合総務課長

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。

佐々町総合教育会議設置要綱第4条の規定により、会議招集者である佐々町長が議長となります。町長、議長席へ移動をお願いします。

濱野町長

改めまして皆さんこんにちは。ただいまから佐々町総合教育会議を開催いたします。

まず始めに、本日の会議の議事録署名者を指名いたします。

中村尚広委員、金子圭一委員を指名します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

(1) 各委員会からの質問について

濱野町長

それでは議事に入ります。

各委員からの質問についてお願いをいたします。

中村委員

この間、子ども議会に参加させていただいて、子ども達の声を知ることができて、非常に良い意見がいっぱいあって、とても良かったです。

また、シロウオ体験漁があったんですが、その時、発表した児童が来ていて、ふるさと体験型ふるさと納税をしたいと言っていました。児童のお父さんお母さんもみんなで体験に来ていましたが、児童が発表していたことが、いい雰囲気になっていたと思います。また、将来は医者になるということだったので、佐々町に帰ってきてくれればなと思った次第です。

なお、児童の意見に対して町長が非常に温かく見守りながら、全ての意見に温かい言葉をかけられていたのが非常に印象的でした。本当にありがとうございます。

それでは、私の質問は、不登校という重い話題にはなりますが、よろしく願いいたします。

不登校が非常に増えてきています。添付資料に10年間の推移がありますが、1,000人当たりの認知件数が令和6年度は37.17人、令和7年度は42.57人と、かなり増えている感じがします。

佐々町の取り組みは、不登校をほったらかしにしてるわけではなくて、「あすなろ」とか「なずな」とかそれから「ステップルーム」があります。「ステップルーム」については、この間、佐々中学校を見せていただいたんですけど、その取り組みは非常に進化していると思いました。

どうしても教室に戻れない子は、別の部屋で授業を受けて、それも出席扱いになるということで、非常に考慮していただいていると思いました。教室に行けない児童を、無理やり引っ張って行くというのは、不可能に近いし、本人にとっても、また家族にとっても辛い出来事になるのではと感じています。

現状、学校に来れない児童を、ほったらかしにしないという取り組みは、とても良いのではないかと思いますし、そこから復帰できる児童が増えて欲しいですし、佐々町は子ども一人ひとりを、とても大切にすることではないかと思うのですが、町長からご意見をお聞きしたいと思います。

濱野町長

不登校の児童がこんなに増加傾向にあるのかと思います。以前、議会の傍聴で聞いておりましたが、以前は公表されていなかったと思います。最近、このように公表できていますが、大変な状況になっていると思いました。私が教育委員会で社会教育を担当していた時は、全く情報はいただけませんでしたので、時代が変わったなと思っているところでございます。

中村委員が言われたように、児童を強制的に学校に行かせることはしない方がよいと

というのが、一般的になってきていると思います。

ただ、私は以前から、不登校になる前の段階で、学校としてどのように対応されているのかと思っていました。対応と対策を分けて考えていただければと思うのですが、対策としては、「ステップルーム」とか「なずな」があるとは思いますが、どのような対応が学校で準備されているのか、昔から少し疑問がありました。

先生方もお忙しく、事務的なことが多くありますので、児童に向ける時間が少ない、そういう状況かなっているのは察してます。しかし、先生方の熱意といいますか、それぞれ先生方によって対応が違うのかなというふうにも思っているところです。

初期の段階で対応していただいて、それからどうしても難しいようであれば、対策として外部団体にもお願いすることになると思います。なお、不登校に対する相談窓口については、積極的にやっていかないといけないと思います。

中村委員

ありがとうございます。町長がおっしゃったように、まずは対応ができているのかという部分について、私も対策ばかり考えていたと思います。

現状として、先生方は一生懸命やられてるのは間違いないと思いますが、今後、学校訪問とか先生方と会う機会があれば聞いてみたいと思います。

濱野町長

私も小学校でこんなに多くの不登校がいらっしゃるのかと驚いています。1人2人はいるだろうなどは思ってましたけども、相当な人数になっていました。中学校は、ある程度増えているかなとは思ってましたが、小学校でこんなに多いとは驚いています。

荒木委員

私からは、ふるさと教育についてお聞きしたいと思います。

将来の佐々町を考えると、若い方達に将来、佐々町で暮らしたいと思ってもらえることが必要だと思います。

そのためには、佐々町に愛着を持つ子ども達を育てることが重要だと考えています。現在、佐々町では、それぞれの学校が独自に様々な取組をされているところですが、今後、行政が主体となって学校・地域・保護者が一体となった佐々町独自のふるさと教育に取り組むことができる仕組みづくりはできないか検討していただきたいと思います。

私もいくつか調べてみたんですけども、2つほど提案させてもらえたらと思います。

1つ目は、佐々町を学ぶ、佐々町独自の取組について、地域の方々や地元企業の方、保護者の方を巻き込めないかということで、例えば、岩手県大槌町、神奈川県横浜市を挙げていますが、文部科学省から地域と学校の連携協働推進に向けた参考事例集というのがありますので、資料をつけてもらっています。

大槌町は「ふるさと科」として、故郷を勉強の科目に設けて、そこに色々な地域の方と連携をしているのが、すごくいいなと思っています。佐々町でも、行政が真ん中にいて、周りに保護者であったり、企業であったりという形ができないかと思いました。

2つ目は、佐々小学校と口石小学校が共同して1つの行事ができないかと思います。例えば、口石小学校の田植えであったり、梅干しづくりであったり、佐々小学校のシロウオウォーキング、佐々っ子フェスタなど、それぞれにすごく良い取り組みをされていますので、これを小学校区に捉われない、佐々町全体としての取組を検討していただけたらと思います。小学校の頃から交流ができていれば、中学校になって、子ども達がスムーズに行くこともあるんじゃないかと思いますので、行政の主導によって考えていただけないかと思い、提案させていただきます。

濱野町長

私が教育に1番期待するのは、人材育成とあっていまして、ふるさと教育は大事だと思います。この前の子ども議会でも、よく佐々町のことを勉強していて、とても感心をいたしましたので、こういう意見を言ってもらっていることは非常に有難いと感じたところです。ふるさと教育はやるべきだというふうに思っているところですが、先生方もお忙しいので、なかなかそういうところまで調整ができていないのかなという感じがいたしております。

佐々町は、1つの中学校、2つの小学校となっており、教育環境としてはベストなんですよね。他の市では、中学校区単位で出来ない事業が、佐々町では出来るということで、まずは長崎県内1番の教育の町が出来ればと感じております。

参考事例の大槌町は、東日本大震災の関係で、統合される小中学校で新たな教育政策というのが出来たということで、佐々町では難しいかなと思うんですけど、もう1つの東山田中学校区は、非常に参考になると思います。

私が壱岐市に行ったとき、高校生が島を離れるということで、高校2年生か3年生が壱岐市内の文化財を見て回る取り組みが、とても良いと思いました。

私は、小学校は子ども達が羽ばたく場所だと思っており、中学校ではある程度、技術面を習得したりとか、社会の状況とかを学ぶようになると思いますが、もっと特色あるものを作っていければ有難いと思っていますところでは。

また、両小学校行事の一本化についてですが、これは学校毎のカリキュラムの時間を調整するのは大変ですので、それぞれに行事をされていると思います。なお、佐々小学校でも田植えはありました。私の父がやっていましたが、高齢で出来なくなったのですが、昔からありました。だから一緒に、こういう行事をやったらどうかというのを、お互いにアイデアを出しながら進めることは可能だと思います。年に1回ぐらいだったら佐々フェスティバルをやりましょうとか、そういうのはできるかなと思いますので、今後検討出来ればと思います。

金子委員

私の方からはトップアスリートとの交流の提案でございます。

昨年、口石小学校の創立150周年記念事業におきまして、陸上の藤永佳子選手のお話を伺う機会がございました。子ども達が本物のアスリートと直接触れ合うことの影響は非常に大きく、競技の魅力について、選手を見て、感じて、体感することで、スポーツの理

解と関心が一気に高まることを実感いたしました。アスリート自身が語るストーリーは強い説得力があり、その競技の魅力を何倍にも引き上げます。

また、正しい体の使い方を学ぶことは、怪我の予防や運動能力の向上にも繋がり、子ども達の健やかな成長に直結します。

さらに、トップアスリートの言葉は、子ども達の意欲を高める力を持ち、スポーツへの前向きな姿勢を育てます。

こうした交流は、子ども達だけではなく、町全体のスポーツへの関心を高め、スポーツに親しみ、応援する文化を育むことになると思います。

もちろん、佐々町出身のトップアスリートをお招きできれば理想的ですが、出身にこだわる必要はなく、県代表レベルの高校生や大学生でも十分に価値ある学びと刺激を与えてくれると思います。

以上の理由から、トップアスリートとの交流会を定期的を開催することについて、子どもの成長、そして健康、そして佐々町の未来を支える投資として是非ご検討いただきたくご提案いたします。どうぞよろしく申し上げます。

濱野町長

私も口石小学校創立 150 周年に出席させていただきました。藤永佳子先生が小学生にも分かりやすく説明されていたので、さすがだなと思いました。競技者だけでは、子ども達に伝えるのは非常に難しいと思ひまして、藤永先生は、よく講演をされているのかなという感じはいたしました。

現状として、スポーツ少年団やスポーツ協会では、専門分野の方を呼んで、実技講習会、技術講習会を実施していただいております、北松浦郡のスポーツ協会が助成してやっております、他にもいくつかあります。

なお、藤永佳子先生のような方が陸上などの競技について、小中学生にやっていただくことは、非常に良いことと思ひますし、年に 1 回ぐらいやっていいのかなと感じはいたしております。

また、講師の方をどういうふうを選定するのかを考えると、東京からとなれば結構旅費もかかりますので、近くの方で小中学生向けにやっていただくとか、そういうことは絶対プラスになると思ひますので、研究をさせていただきたいと思ひます。

金子委員

この前、九文高校の野球部の卒業生が 30 分程度ですけども、幼稚園で野球教室をやってくださいました。子ども達のためにやったことですが、教える高校生も大変喜んでおりまして、このような良い交流ができればと思ひます

金澤委員

私からは、佐々町ならではの魅力ある子育て教育環境作りについて要望をさせていただきたいと思ひます。

佐々町は言うまでもなく、色んなことが手厚く、子育て世代は色んな取り組みがなされていますので、佐々町は良いよねっていうのを耳にするたびに、何か自分も誇らしく思う

ところでは。

また、教育環境として、子ども達に様々な機会を提供するという事は、すごく大事な事だと考えています。

その中の1つとして、グローバルな視点に立って、異文化に触れて広い視野を養う機会の提供を佐々町がバックアップできないかと考えました。

そこで、3項目挙げさせていただいています。1つ目は外国の方々との交流の機会ということで、近隣であれば、佐世保市の交流プログラムですが、以前、中学校だと思いましたがイングリッシュキャンプということで、ハウステンボスで5、6人のグループの中に1人ずつ入っていただいて、英語で会話をしていくというような、交流も兼ねた取り組みが佐々町でもできないかなと感じるところです。

2つ目ですが、留学の奨学金ですけれども、現在は羽ばたけの奨学金をされていると思いますが、そこに留学を対象にできないかと思っています。私も教職の経験をしておりまして、色んな子ども達から相談を受けることがありました。その中で、家庭的、経済的なものがあって、留学したい、勉強したい、向上心はあるけれども、なかなかうまくいかないことがありました。1年間休学をしてアルバイトをしてから留学するという子どももいました。

明るい未来に向かっていく子ども達に、何か支援ができないかという提案です。ちなみに1番安く、低価格であればフィリピンに1か月で50万円というのがありました。1ヶ月でもその程度の費用がかかりますので、町の支援ができないだろうかと思ったところです。そして、留学を経験した子ども達が学校などで体験発表会をして、次の子ども達に広がっていくと思います。

3つ目ですけれども、国や地域との交流事業で、少し大きなことになると思いますが、姉妹都市の連携など、ホストファミリーとして、夏休みなどを使ってお互いに付き合っていくような交流を考えました。英語教育に限らずですが、やはり生きる力が必要な子ども達に、これから何ができるかというところで、環境や機会を作っていただければと思います。

濱野町長

国際交流について、佐々町でも国際結婚で外国人の方が住まわれていますので、まずは、そういうところから交流ができるかなというふう感じたところです。わざわざ交流のために外国に行くとなると、費用も相当かかりますし、安全性なども考えると、お金も人もいるようになりますので、出来るところからやれば良いと思います。

留学生に対する奨学金についてですが、町長になって、非常に財政が厳しい状況を知りました。学校では、まずはLED化をしないとイケないし、他の公共施設もやっていかなければならない状況です。大変申し訳ないですが、現在は、留学に対する助成金は難しいかなと感じているところです。

そして、姉妹都市の連携について、昨年、瀬戸市に行ってきましたが、姉妹都市の連携をするのであれば、まずは私を含めて佐々町の人達の意識改革をやらないとイケないと思いました。姉妹都市の提携は生半可な気持ちではできない、お互いにリスペクトしながらやっていく必要があると思っています。

瀬戸市に行った時に教えてもらった佐々町との歴史については、昔、私達が教わった内容と全く違っていました。まずはその差を縮めないと、なかなか難しいと感じているところでございます。

ご提案はありがたいことですが、やはり予算が絡むことですので、今はご期待に沿えず難しいかなと思っています。

富野教育長

4名の教育委員のお考えを聞かせていただき、教育委員会として今後考えていかなければと思ったことを、少しお話をさせていただきたいと思います。

中村委員の不登校対策について、町長が言われたように、まずは、学校の対応はどうだったのかということの検証をしておかなければならないと思っています。また、学校は保護者との関係性で非常に苦勞してる状況もあります。保護者に対して、どうアプローチをするかということは、教育委員会の中でも、今後、何か策を練っていききたいなどというふうに思っているところです。

荒木委員のふるさと教育について、大槌町につきましては、ふるさと科という教科の設定は、総合的な学習の時間の中で作られてるんですが、国の特区を取られて実施されているようです。町長が言われたように、東日本大震災の経験を踏まえて、コミュニティの大切さ、ふるさとの教育など、みんなで何が出来るかということを考えていくことが、非常に大事なことであると思っています。佐々町のコミュニティスクールも、より機動的な形にすることで、先ほど言われた1つの行事をみんなで一緒にやっていくということは可能かなと思っていますので、今後、校長会でも相談しながら一歩ずつ進めていきたいと思っています。ただ、後ほど学校の働き方改革の中でも話をしますが、学校行事の準備運営は、本当に大きな職員の負担にもなっています。そういったところで教育委員会事務局として何かサポートができる方策というか、コーディネートをする必要があるのかなと思っています。

金子委員のトップアスリートとの交流について、年に1回ぐらいでやっていいのではと話がありました。来年度はどうか分からないですが、出来るところから進めていければなと思っています。ちなみに今年のジョギングフェスティバルでは、非常に素晴らしい選手に来ていただけになりました。三菱重工マラソン部の選手が招待選手としてゲストランナーに来ていただくのですが、子ども達に良い影響になればと思っています。

金澤委員の魅力ある子育て環境作りにつきましては、本当に町長も思いは持っておられるのですが、非常に壁が高いということもあるかと思っています。色んな手法があるかもしれませんが、そこは目指す姿として、町長部局と町教育委員会が協力をしながら、何らかの形で進めていければなというふうに考えているところです。

富野教育長

それでは、私の方から教職員の働き方改革について質問をさせていただきます。

資料を付けておりますが、令和7年6月11日に法が改正されており、教職員の調整額の引き上げとなっています。学校の先生は残業手当は出ないのですが、この調整額で残業

手当分として上乘せをしており、その額を引き上げる法改正がありました。それが施行されるにあたり、元々その付帯条件といいますか、この法律を改正するにあたっては、先生達の働き方改革を促進させなさいという条件が付いています。これは教育委員会だけではなくて、町長部局ともしっかり協力をしないとイケないということになっています。

資料に自治体として取り組んでいただきたいことがあります。総合教育会議を活用した教育委員会との連携は、この総合教育会議となっており、毎年この会議のなかで、現在こういう状況になってますということを報告し、町長と教育委員会の連携していければと思います。

それから3枚目の資料に、学校と教師の業務の3分類というのがございまして、学校以外が担うべき業務、教師以外が積極的に参画すべき業務、教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務となっています。

実は佐々町は先んじて実施されていることが多々ございます。まずは、登下校時の通学路における日常的な見守り活動ですが、町長も立っていただいております。この見守り活動というのは、本当に佐々町の組織がしっかりできているところです。

また、教師以外が積極的に参画すべきところということで、この調査・統計等への回答というのは、事務の先生方が積極的に実施しており、学校の校長先生方が、そういうことをしていきましょうということで進められていた内容です。ICT機器・ネットワーク設備の日常的な保守・管理については、教育委員会事務局職員が学校と連携をとりながら進めている内容です。

そして、教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務について、授業準備がありますが、佐々町では、これも先に入れていただいて、スクールサポートスタッフということで進めていただき、先生方の負担軽減に尽力していただいているところです。

なお、学校運営支援策の予算化の推進ということで、今も町長には進めていただいておりますが、今後も必要な部分についてはお願いしていきたいと考えており、学校プールや体育館等の施設・設備の管理についても、学校ではなくて地域の方が担って進めていった方が良いという考えが文科省にあるのですが、その協力要請等も町長部局にさせていただくことで、よりスムーズな移行ができるのではないかと考えております。

学校と教師の業務の3分類について、教師でなければ出来ない業務に専念するためにも、この3分類について、一つずつ課題を解消していければなというふうに感じておりますが、町長のお考えについてお伺いさせていただきたいと思っております。

濱野町長

率直な意見としまして、文科省の考えは理想論だなと思いつつ資料を見ておりました。まず部活動について、地域連携ということを頻りに言われてますけど、昔から佐々町では地域連携をしておりました。それを土日もやって欲しいということで、これは学校の働き方改革でそういうふうになってきたと思っております。私は、何故、部活動のときに調整手当を出すと言われなかったんだろうなと思っております。インターネットで教師の方の意見がありましたが、働き甲斐ばかり出てきてました。そのようななかで部活動を公務でしない方向に進んできてしまっ、部活動に協力している人を、何かこっちに来なさいみたいな感じになってますので、やるのが逆じゃなかったのかなと思っております。

です。佐々町は、部活動は学校を主体的として、一般の方々が指導をしており、先生方も一緒になって指導者として入っていただいております。土日についても、手当を出しますので協力していただくことになっています。現在、部活動に協力していただける方が、どれだけいらっしゃるのか疑問ですが、出来れば佐々町のために、佐々中学校生徒のために協力していただければありがたいと思っていますところです。

なお、部活動の地域連携は、事務負担が結構出てくるので、教育委員会には置けないかなと思っており、スポーツ協会の事務と合わせて、部活動の地域連携をやっていただく方がいないか、また、その財源は、体育施設にある自動販売機の売り上げを当てるとか、そういうふうにしたらどうかと考えていたところです。

また、教育長より3分類について説明がありましたけども、本当に佐々町は先進地で、それをモデルに文科省がこの冊子を作られたのかなと思うぐらいに、行政が力を入れていると思います。先生のOBの方が、サポートティーチャーで試験の採点に協力されていますが、そういう取組を拡大できれば有難いかなと思っています。

私の古いイメージで、学校は学校単位で運営をされると思っていましたが、やはり地域を巻き込んでいく必要があるとなったのではと思います。大阪では、殺人事件などで校門を閉めたりとかあっていましたが、佐々町は昔からオープンで、校門を閉めることなくやってきたと思います。昔は下校してからも学校で遊んだり、自由にできてましたけど、最近はなかなかいない状況で、塾に行ってる子がだいぶ増えた感じがして、昔からのイメージがだんだん変わっており、今の子ども達は大変だなというふうに思っているところです。

教育長の質問に対して、回答になっていないこともあると思いますが、何とか先生方の負担を減らしていかないといけないということは、確かなことだと思います。ただ、佐々町に赴任してきていただいたら、佐々町の子ども達のために一生懸命やっていただければ有難いと思います。担任を拒否するような先生が来られたら困るなと思いますが、経験豊富な先生方が担任を持っていただいたら良いなというふうに思っているところです。

富野教育長

ありがとうございました。学校と教師の業務の3分類については、町長との協議を継続しながら、この総合教育会議の中でも確認をしていきたいと思っています。また、来年度の予算においても、この分野に貢献できることを上程する予定にしているところです。

なお、町長におかれましては、教育に対して非常にご理解をいただいておりますので、今後も遠慮なく色んなことを要望してまいりたいと思いますが、よろしく願います。

濱野町長

それでは各委員さんからのご質問については終わらせていただきます。ありがとうございました。

(2) その他

濱野町長

続きましてその他になりますが何かございますでしょうか。何もなければ、その他について、終わらせていただきます。

5. 閉会

濱野町長

それでは、この会議の目的とする地方公共団体の長と教育委員会の意思疎通を図ることについて、このような機会を設けていただき、ありがとうございました。今後とも教育委員会と連携を図りながら、教育行政の改善に努めてまいりたいと思っておりますので、引き続きご協力をいただきますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。

落合課長

以上をもちまして、佐々町総合教育会議を終了いたします。本日はお忙しいところ誠にありがとうございました。

上記のとおり会議の次第を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

佐々町教育委員会

署名委員

仲村尚広

署名委員

金子圭一

令和 8 年 3 月 25 日

令和 7 年度 佐々町総合教育会議 (第 1 回)